

自己評価結果公開

小百合第二保育園

1. 本園の保育目標

乳幼児の発達を正しくとらえ、個人差や環境に十分気を配り、集団生活を通じてすべての面の発達を促進させるような生活・活動を豊かに展開し、子どもたちが自分を大切に、他人を大切に、互いに協力し合って、よりよい生き方が出来るよう、その基礎を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、自己点検・自己評価することにより、職員の共通理解をはかり、職員自身の振り返りと自園を客観的に見直す目を養い、職員の資質の向上、保育の向上を目標に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

①保育の計画性 B

指導計画は、保育指針と全体的な計画を基に作成しているが、環境構成や評価・反省は比較的高い評価であるのに対し、保育理念・保育方針への理解度が低いように感じる。園内研修等でのテーマとして取り入れ、職員に対し原点に戻り、根本的な周知を行っていく。

②保育の在り方・幼児への対応 A

毎月、チームミーティング・リーダーミーティングを行うことで、クラス内はもちろんクラスを超えて保育者同士が話し合う場を設け、幼児の情報を共有することができた。また、危機管理として安全面への配慮（特に危険を及ぼす遊具や玩具の点検、食事の際の窒息防止）は年間を通して緊張感をもって取り組んだ。

③専門家としての資質 A

キャリアアップ研修、ZOOMでの研修、現地での研修は積極的に参加し、個人希望の研修会にも積極的に参加する姿勢が見られた。また、園内研修に講師を招き、全職員で内容の理解を深め、共有する機会を設けた。その際、一方的な偏りの研修にならないよう参加型形式を取り入れた。今後も、課題を持って参加する意識を持ち、研修会には引き続きできるだけ多くの保育士を派遣し、専門家としての資質の向上に努めていきたい。

④保護者への対応 A

園での様子、保護者からの悩み等を含め、保育園側から積極的に保護者との関わりを持つようにした。必要に応じ個別面談を行い、家庭と保育園との隔たりをなくす努力を行った。また、随時、通信アプリを使い園での活動の様子（画像にて）をこまめに発信した。

⑤地域との関わり B

地区の交通安全推進協議会をはじめ、年間を通しての会合への参加。また、公民館行事へ園児の作品を展示したり、支援センターと地域の子育てサークル「おひさま」との交流をもち、参加することができた。また、近隣住民への挨拶、園行事開催等の通知を行い、理解を得ながら進めることができた。

4. 今後取り組むべき課題

*子ども主体の遊びの環境づくり

保育園ならではの異年齢児交流を取り入れながら、園児が主体になって安全に遊び込める環境づくりに取り組む。コーナー遊びの見直しを行い、専門のプロジェクトチームを結成する。また、全職員が危険箇所を把握し、事故を未然に防ぐ為に、危険を予測できる保育を行う。

*保育力の向上（年間保育計画の基本となる見直しと取り組み）

園内研修において、保育計画の根本的な基本を学ぶ。また、園の保育理念や保育方針をを目標とし、保育所保育指針と全体的な計画をよく理解し、年間保育計画へつなげていく。

*特別支援教育

これまでも「クラスの中で支援を必要とする子ども」の特性を園全体で話し合い共通理解を図ってきたが、今後も担当職員や主任は天童市・発達支援施設との連携を持ち、情報交換を行っていく。近年支援を必要とする子どもが増えつつあるため、担当職員に限定せず、必要とする子どもの支援、それに伴う保護者支援について園全体で考えていく。